

アンケート調査結果まとめ

【調査概要】

《市民アンケート》(P1)

- ・調査対象：18歳以上の市民3000人
(住基台帳から地域のバランスに応じて無作為抽出)
- ・回収数：1268票(回収率42.3%)
- ・年齢：60歳代以上の方が47.7%

《中学生アンケート》(P1)

- ・調査対象：市内の6中学校の3年生
- ・回収数：215票

《高校生アンケート》(P1)

- ・調査対象：市内5校に通う大村市在住の2年生
- ・回収数：250票

【まちづくりの現状や今後の取組に対する考え方について】

《市民アンケート》(P8)

- ・満足度が高い項目：日当たり、見晴らしのよさや悪臭騒音のない快適性
- ・満足度が低い項目：遊び・レジャー施設の充実度やバスの利便性
- ・重要度が高い項目：河川の氾濫や洪水など、水害に対する安全性が前回の6位から1位に上昇
※7月豪雨の影響によって多くの方が重要視されたと考えられる。
※豪雨で被害の大きかった福重、鈴田、大村地区などが同様の傾向がみられた。
- ・分布図(P10)：重要度が高く、満足度が低い赤く着色した部分に水害に対する安全性や避難路の充実度など安全安心に関する項目(緑色の点)が集まっており、市民の安全安心に対する関心の高さがわかる。

《中学生アンケート》(P12) 《高校生アンケート》(P9)

- ・分布図：市民アンケートと同様に安全安心に関する項目が高かったのに加え、自転車の走りやすさや鉄道の利便性、働く場の充実、娯楽施設の充実に関心が高い結果となった。

【本市のイメージや将来的に目指すべきイメージについて】

《市民アンケート》(P19) 《中学生アンケート》(P19) 《高校生アンケート》(P15)

- ・良いイメージ：自然が美しく豊かで住環境が優れたまち
- ・悪いイメージ：働く場や観光などの場が少なく、個性に乏しいまち
- ・将来のイメージ：市民、中高生同様に働く場が充実したまちという項目が上位となっている。その他に市民の方は福祉医療のまち、交通の便がよいまちが上位となった。中高生では、観光や交流のまちや美しい景観のあるまちなどが上位となった。

【伸ばすべき特徴や担うべき役割】

《市民アンケート》（P21）

- ・前回と同様に総合的な暮らしやすさが1位の地区が多かったのに加え、交通要衝のまちが上位に多い結果になっており、新幹線開業に対する期待があることが考えられる。

《中学生アンケート》（P21）《高校生》（P17）

- ・市民アンケート同様、総合的な暮らしやすさが多かったのに加え、商業サービスの中心地が上位となっている。

【コンパクトシティプラスネットワークのまちづくりについて】

《市民アンケート》（P26、27）

- ・人口減少・少子高齢化によって懸念される問題
公共施設や道路などを維持するための市民1人当たりの税負担の増加や身近で買い物する場所なくなるが多く多くの地区で上位となっている。
- ・立地適正化計画の認知度
計画の内容まで知っている方は3%しかおらず、7割の方は策定したこと自体知らない。
- ・コンパクトシティプラスネットワークのまちづくりの必要性
63%の方がその必要性を感じている。

【現在の住まいや将来の居留意向について】

《市民アンケート》

- ・住まい周辺にある施設（P28）
市全体では高齢者施設などの福祉施設以外は周辺にあるという結果になった。
地区ごとにみるとスーパーがなかったり、医療施設が少なかったりと地域によってばらつきがある。
- ・住まいの周辺に欠かせない施設（P31）
どの地域においてもスーパーマーケット、医療施設、金融機関が上位という結果になった。
- ・今後の居留意向（P34）
約6割の方が現在の場所に住み続けたいと回答され、萱瀬地区や鈴田地区などの郊外の方が移住したいという傾向がみられた。
- ・住まいを移したい理由（P35）
買い物や公共交通が不便という理由が多く挙げられ、前回少なかった医療福祉施設の不便という理由も多く挙げられた。
- ・移住先に求めること（P38）
移住理由と同様に買い物や交通の便利がよいことに加え、災害の危険性が低い場所という意見も多く挙げられた。